

新学習指導要領における社会的事象の見方・考え方を活かした社会科学習の実践 ～ICTの活用を通して～



1 研究主題

新学習指導要領における社会的事象の見方・考え方を活かした社会科学習の実践 ～ICTの活用を通して～

2 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

本単元は、新学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

- (1) 都道府県（以下第2章第2節において「県」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47都道府県の名称と位置を理解すること。
- (イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

以前までは県の様子について資料を活用して白地図にまとめたり、特色を考えたりするだけであったが、学習指導要領が改訂され、自分たちの県の地理的概要を調べて理解したり、県の様子を捉えて地理的環境の特色を考え表現したりすることが新たに加えられた。

ここ数年間でICT技術は飛躍的に進歩し、たくさんの情報や知識を容易に得ることができるようになった。また、世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄され社会情勢が大きく変わろうとしている。そのため、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が必要とされている。

そのような力を身に付けることが求められている。

(2) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

本研究は、印教研研究主題を受けて設定している。副題にある「自ら課題をみだし、自ら考えを表現できる児童生徒の育成をめざして」とは、社会的事象の特色の意味を考えたり、相互に関連付けて考えたりする学習を経て、社会的事象の見方・考え方を育成することであると考えた。

児童にとって自分たちの住んでいる千葉県を題材にすることにより、意欲的に自分で課題を見つけ、必要な情報を集めたり、比較したりしながら取り組むことで主題に迫ることができると思う。

(3) 児童の実態から

実態調査から「社会科の学習が好きですか」という問いに対して68%の児童が「はい」「どちらかといえばはい」と回答しており、肯定的であることが分かる。

また、「どんな学習の仕方が好きですか」という問いには、89%の児童が「見学に行く」と回答しており、体験的学習に意欲的であることが分かる。さらに、グループ学習についても「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した児童が80%近くとなった。しかし、「調べたことを発表するのは好きですか」という問いに53%の児童が「どちらかといえばいい」「いいえ」と回答している。

事前テストでは、県内のレジャー観光施設について多くの児童が同じ回答をしており、知識に偏りがあることが分かる。農業については千葉県農産物で落花生が有名であると、多くの児童が回答した。海についての問いには、海産物についてよりも観光やオリンピックに関する回答をする児童が多く見られた。工場で生産されている物についての質問には、3年生の時に社会科見学に行っていることから、市内のヤクルト工場と答えた児童が多いと考えられる。また、千葉県にある市町村で知っていることについては、主に四街道市周辺の市を回答する児童が多く、遠方の市町村にはあまり馴染みがないことが分かる。

地図から土地の様子を読みとる問題では、土地の様子を文章で表された地点を選択することはできるが、絵に合う地点を選ぶ問いは苦手であることが分かる。

社会科の学習に対しては好意的で、グループでの学習に意欲的な児童が多い反面、調べたことを発表したり伝えたりすることに苦手意識をもっている児童が多い。「調べたことをそのまま伝える」と回答した児童もいることから、調べて分かったことを自分で考察し、自分でまとめ表現する力を身に付けさせる必要があると考える。

3 主題について

本単元において「社会的な見方・考え方」とは、単に調べ学習をしてまとめるのではなく、複数の調べた事柄について比較してみたり、関連付けて表現をしたりすることであると考える。

学習指導要領解説社会科編によると、社会的な見方・考え方について「社会的な事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」とある。

千葉県の地理的概要や産業について、自ら調べ比較・分類する活動を行う学習内容に取り入れることで、社会における様々な課題についても俯瞰して捉えることができるようになるだろうと考え、本研究主題を設定した。

4 教材開発について

学習指導要領の改訂により、第4学年目標には「社会的な事象の見方・考え方を働かせること」が明記されており、地理的な特色を考え表現することが加えられている。これまでは、第3学年及び第4学年と一括りにされていたものがそれぞれの学年に分けられ、子どもたち自身が調べたことをもとにして、考え抜いていくことが求められている。このことから、千

葉県の地理的概要を一つ一つ調べ、その調べたことから関連性を見つけ表現していくことが大切であると考え。

千葉県地理的概要として、主に「土地の様子・人口・気候・交通」を取り上げた。その中で土地の様子と人口や、人口と交通など自分で調べたことに関連性を見出して、他の友達に伝えられるようにしていく。また、地理的概要についての学習を終えて、産業の内容に取り組みことによって地理的概要と産業について結びつきや関連性を見つけやすくしていきたい。

最初の「見出す」では、自分たちが住んでいるのが千葉県ではあるが、千葉県について詳しく知らなかったり、説明することが難しかったりする点を取り上げることで、課題意識を持たせるようにする。「自分で取り組む」の段階では、図書資料やインターネットを活用して、千葉県の基本的な地理的概要の知識を押しえられるようにする。そして「広げ深める」の段階では自分たちの調べたことを、ICT 機器を活用することで、比較したり関連性を見つけたりできるようにする。最後に「まとめあげる」では、国語科の学習でも取り組んだ「リーフレットで知らせよう」で学習したこと生かしながら、学習したことをまとめ上げられるようにする。

産業の部分も同様に進めていくが、主に農業・工業・水産業について取り組んでいけるようにする。また、子どもたちがメインに調べる産業を選び、他の友達に伝え合う活動を取り入れることで、目的意識をもって学習に取り組むことができると考える。

5 研究目標

千葉県の地理的概要や産業について、GIS を活用したり単元計画を工夫したりすることにより、児童が自ら課題を見つけ解決するための社会的事象の見方・考え方を活かした学習を行うことができるということについて実践を通して明らかにする。

6 研究仮説及び手立て

【仮説 1】

ICT 機器を活用することで、千葉県の地理的環境の特色や概要の相互関係に着目して捉え、比較・分類しながら学習を進めることができるだろう。

[手立て] GIS を活用して、地理的環境の特色を関連付けて考える

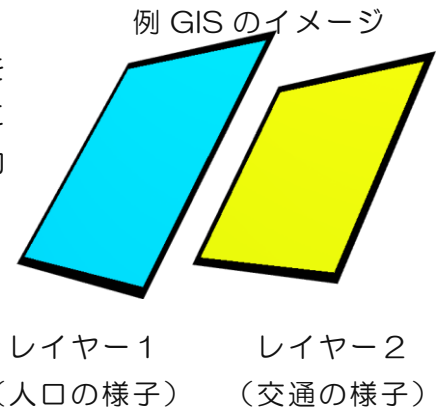
県の地理的概要や環境には、県の位置や県全体の地形、人口や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置が挙げられる。これらは「調べる」の段階で1つ1つの知識として学習することはできるが、ただ調べるだけでは、知識を覚えるだけになってしまう。

また、相互にどのような関係があるのかを自ら見いだすことは難しい。身に付けた知識を基に、それらを比べ、そこから考えられることをまとめるために、GIS を活用する。GIS を取り入れることで地形や土地の使われ方、人口や交通、交通網や産業の分布をそれぞれ比較して、なぜその場所に人口が多いのか、どうしてその産業が広がっていったのかをより直感的に考察することができる有効な手立てになると考えた。

※GISとは

GISは地理情報システム・Geographical Information Systemのことで、地図上に文字や画像などの情報を重ねることで、データを統合的に扱うことができるシステムで、コンピュータ上で確認することができる。

各種の情報（土地の様子や人口・交通や産業の分布）を層として記録することで地図上に表すことができ、容易に重ねたり並べたりすることができるので、視覚的・直感的に把握することができる。



【仮説2】

単元の学習計画を工夫することで、児童同士で伝え合い、主体的に学習に取り組むことができるようになるだろう。

〔手立て〕 地理的概要を比較しやすくするために、千葉県的基本的な特色と産業の特色の2つに指導計画を分ける

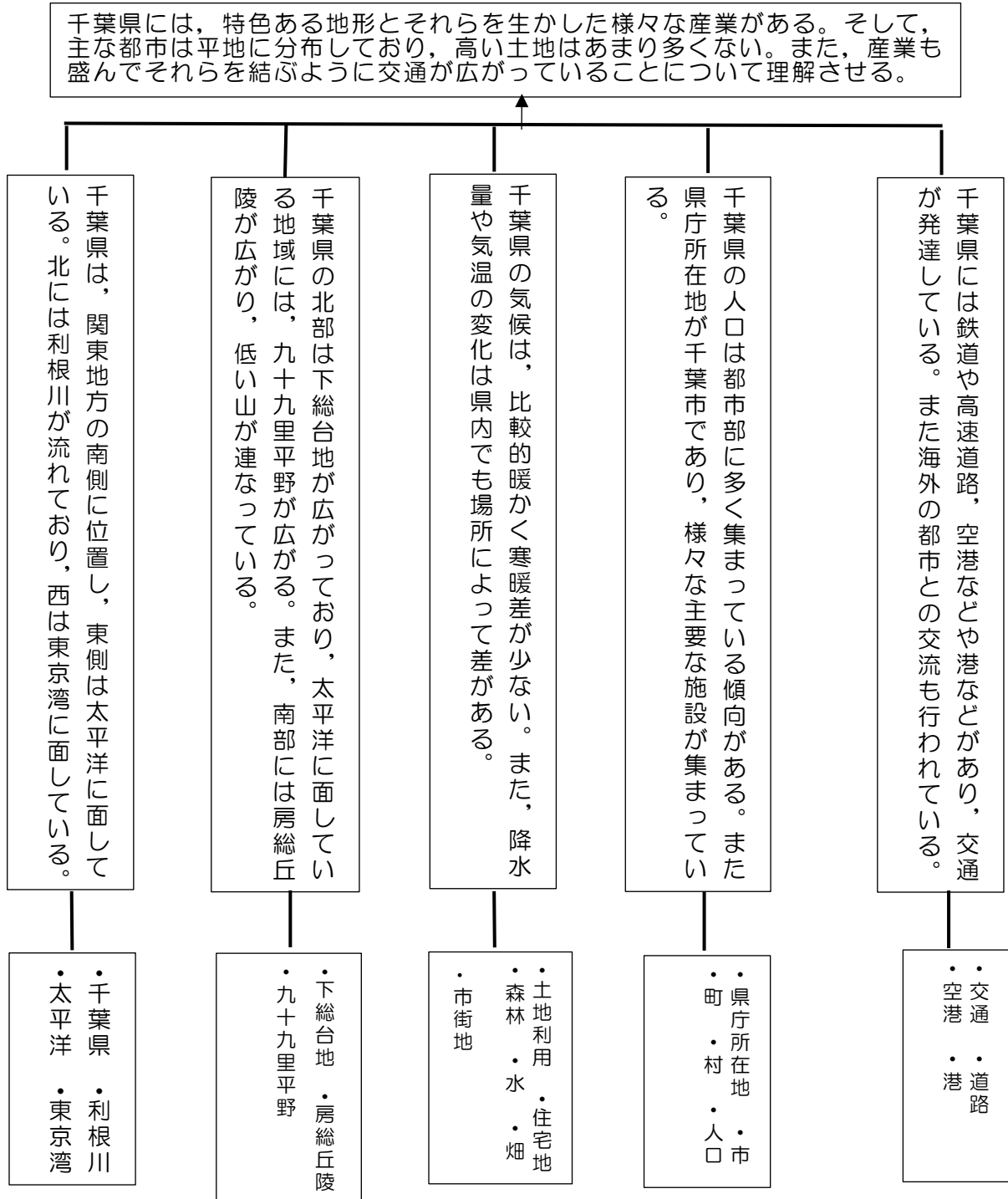
千葉県の地理的概要や特色を学ぶ際に、土地の様子や人口、交通や産業を1つの単位として学習していくことが一般的であるが、今回は土地・人口・交通と産業とで2つの単位に分けて学習を進める。

まず、千葉県の土地や人口、交通について調べ学習を進める。そして「広げ深める」の段階で、自分たちで調べたことを関連付けて考える。最後に「まとめる」の段階ではリーフレットを個人で作成して調べたことをまとめるようにする。

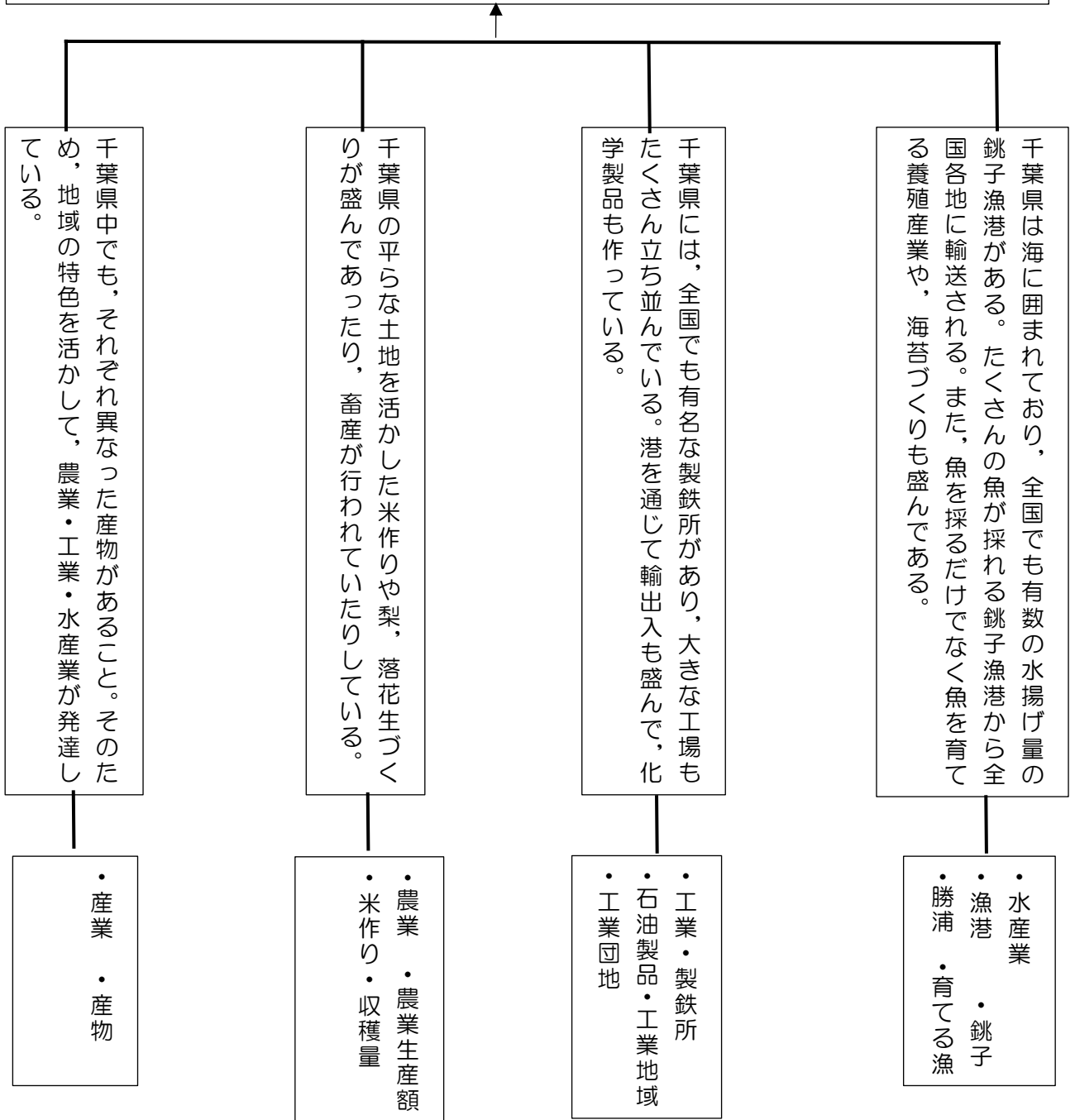
次に同じ流れで産業の特色について調べる。「広げ深める」の段階で、以前各自で作成した県の特色をまとめたリーフレットや調べたことを基にして、産業の特色と比較して考えまとめる。

2つ目の単位では、農業・工業・水産業について児童がどれか1つを選んで調べる。自分が調べたことを伝え合う。これによって児童それぞれが役割意識をもち、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようになると思った。

7 研究構造図 (←知識の構造図)



千葉県には、地形の特色や気候、などを活かして様々な産業があること。また、千葉県の中でも地域によって異なる産物を作り出していることについて理解させる。



8 研究の実際

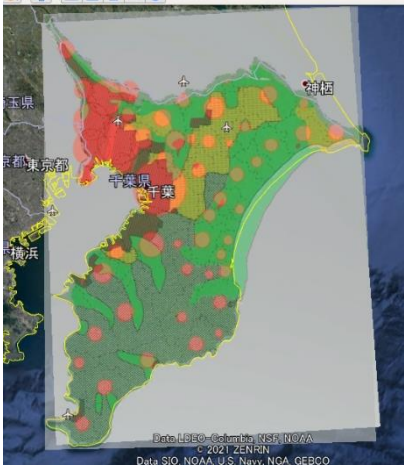
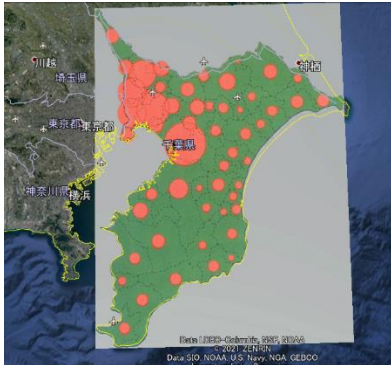
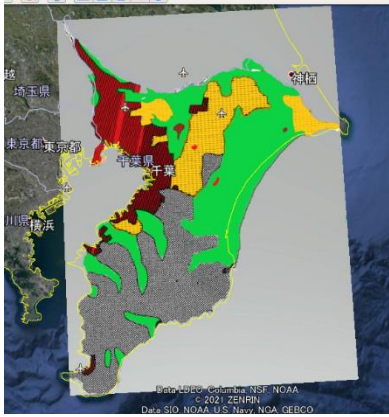
(1) 単元名 「わたしたちの県」(土地・気候・人口・交通編)

(2) 単元の目標

- ・自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などについて地図帳や各種の資料で調べ，必要な情報を集め，読み取り，県の様子を理解できる。
(知識及び技能)
- ・自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，問いを見出し，県の様子について考え表現できる。(思考力，判断力，表現力等)
- ・県の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとする。
(学びに向かう力，人間性等)

(3) 単元計画 (全10時間扱い)

学習過程	学習内容と学習活動	授業の実際
見出す (1)	<p>「千葉県のみりよくはなんだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県について自分の知っていることをもとにして，話し合う。 ・千葉県の魅力的な部分について関心をもち，単元の学習問題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる県について関心を持ち，魅力的な部分について意欲的に見つけ出す。 ・自分たちの県の特色について，予想し学習計画を立てる。
	「千葉県〇〇〇マップ」を作って，千葉県の特色を伝え合おう	
自分で取り組む (6)	<p>「日本の中の千葉県」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本地図から千葉県がどこに位置しているのかを調べ，周囲の県や土地の様子と関連付けて考える。 <p>「千葉県の土地」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の土地の様子や山並みについて調べ，千葉県の土地にはどのような特徴があるのかを考える。 <p>「千葉県の気候」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の気候や気温について調べ，場所によってどのような特徴が見られるのかを考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県がどのような場所に位置しているのかを調べて，ノートや白地図にまとめ，説明しようとしている。 ・千葉県の土地にはどのような特徴があるのかを調べて，ノートや白地図にまとめ，説明している。 ・千葉県の気候にはどのような特徴があるのかを調べて，ノートや白地図にまとめ，説明している。

	<p>「千葉県の人口」</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県の人口について調べ、人口にはどのような特徴が見られるのかを考えまとめる。 <p>「千葉県の交通の広がり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県の交通について調べ、交通にはどのような特徴が見られるのかを考えまとめる。 <p>「発展する千葉県」</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県が近隣の県、諸外国とどのような関わりをもっているのかを調べまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県の人口にはどのような特徴があるのかを調べて、ノートや白地図にまとめ、説明している。 千葉県の交通にはどのような特徴があるのかを調べて、ノートや白地図にまとめ、説明している。 千葉港や成田空港の役割について調べて、ノートや白地図にまとめ、説明している。
<p>広げ深める</p> <p>(1)</p>	<p>「県の特徴をまとめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに調べたことをもとに、白地図とGISを活用して県の特徴に関係があるのか調べる。   	<ul style="list-style-type: none"> これまでに調べたことに関連性があるのかを調べて、まとめる。
<p>まとめあげる</p> <p>(2)</p>	<p>「千葉県○○○ガイドマップを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを紹介できる、オリジナルガイドマップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容や白地図・ワークシートなどの資料を活用し、魅力発信ガイドマップを作成しようとしている。

(4) 単元名 「わたしたちの県」(産業編)

(5) 単元の目標

- ・自分たちの県全体の主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などについて着目して，地図帳や各種の資料で調べ，必要な情報を集め，読み取り，県の産業の様子を理解できる。
(知識及び技能)
- ・自分たちの県の主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，千葉県の様子の関連を見出し，県の様子について考え表現できる。
(思考力，判断力，表現力等)
- ・県の様子について，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。
(学びに向かう力，人間性等)

(6) 単元計画 (全9時間扱い)

学習過程	学習内容と学習活動	授業の実際
見出す (1)	<p>「産業とはなんだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業について自分の知っていることをもとにして，話し合う。 ・自分がどの産業について調べたいか決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる県の産業について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとしている。
<p>「千葉県〇〇〇ガイドマップ Part 2 を作り，千葉県の産業を友達と伝え合おう。」</p>		
自分で取り組む (3)	<p>「産業について調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ農業，工業，水産業について発達している場所を調べ，土地や気候，人口の様子と関連付けて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の産業について調べてノートや白地図にまとめている
広げ深める (3)	<p>「農業について深めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の農業について友達の発表を聞き，なぜその地域で発達していったのかを考える。 <p>「工業について深めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の工業について友達の発表を聞き，なぜその地域で発達していったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の特色について，土地の様子や気候，人口と関連付けて考え，説明しようとしている。 ・工業の特色について，土地の様子や気候，人口と関連付けて考え，説明しようとしている。

	「水産業について深めよう」 ・千葉県の水産業について友達の発表を聞き、なぜその地域で発達していったのかを考える。	・水産業の特色について、土地の様子や気候、人口と関連付けて考え、説明しようとしている。
まとめあげる(2)	「千葉県〇〇〇ガイドマップを作ろう Part2」 ・調べたことを紹介できる、オリジナルガイドマップを作成する。	・これまでの学習内容や白地図・ワークシートなどの資料を活用し、魅力発信ガイドマップを作成しようとしている。 ・これまで学習してきた産業の特色を白地図やワークシートから考え表現しようとしている。

9 仮説の検証

(1) 抽出児童3名の変容から仮説1・仮説2の有効性を検証する。

【検証の方法】

評価基準を設けて、ノートや作成したリーフレットの記述から、以下の3点について、児童の変容を分析する。

- ① 千葉県の地理的概要・特色の理解度（知識）〈自分で調べた時〉
- ② GISを活用した効果（仮説1）
- ③ 話し合い・伝え合いをした後の児童の変容の姿（仮説2）

【千葉県の地理的概要についての記述の評価基準】

評価	評価基準	文例
A	千葉県の土地の概要を理解し、土地の利用や様子について比較し、理由を考えている。	「下総台地は平らな土地の様子をしていて、畑や住宅街が多い」 「房総丘陵では山並みの土地の様子をしていて、田や畑が少ない」 「千葉市や船橋市の辺りは、下総台地で平らな土地をしていて、人口も多い」
B	千葉県の土地の概要を理解し、土地の利用や様子について比較している。	「下総台地は平らな土地の様子をしている」 「千葉市や船橋市の辺りは人口が多い」
C	千葉県の土地の概要を理解している。	「千葉県には下総台地・房総丘陵・九十九里平野がある」 「千葉県は千葉市や船橋市を中心に交通が発達している」

【千葉県産業についての記述の評価基準】

評価	評価基準	文例
A	県の産業の様子を理解し、前単元で学習した千葉県のすがたと比較し、理由を考えている。	「下総台地は土地が平らになっているので、畑がおおくなっている」 「作った工業製品は船や飛行機を使って輸出している」 「県の南部は暖かい気候を生かして花を作っている」
B	県の産業の様子を理解し、前単元で学習した千葉県のすがたと比較している。	「下総台地ではたくさんの野菜が作られている」 「房総丘陵では、花やびわを作っている」
C	県の産業の様子を理解している。	「埋め立て地には工場がたくさんある」 「銚子漁港ではたくさんの魚が捕れる」

【抽出児童3名の変容】

	A児	B児	C児
① 千葉県の地理的概要・特色の理解度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県の土地の様子を調べ、わかりやすく色ごとに分けて図を描いている。 ・ 人口の数を白地図に図に表してまとめている。 ・ 千葉県の人口を地域別にまとめ、人口が多い理由を自分なりにまとめて、他に調べたことと比較して考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県の気候の特色について調べたことをノートに書いている。 ・ 千葉県の交通について教科書を基に調べることができる。 ・ 千葉県の人口について調べたことを白地図にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を見て、千葉県の土地の様子について調べている。 ・ 千葉県の人口について資料を基に調べてメモしている。 ・ 交通について調べて、白地図にまとめている。
評価	A	C	C
② GISを活用した上での効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で調べ学習を進めている段階から、地理的概要について比較することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GISを活用した学習を通して、比較する視点を見つけることができ、調べたことを比較し考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口と気候を結び付けて、自分なりに比較検証をしているが、人口と気候では関連性を見出すことが難しい。

評価	A	A	C
③話し合い・伝え合いをした後の児童の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ らっかせい畑は県の中央部の台地に広がっている。 ・ 調べたことを友達に教え、その友達が参考にしていく。 ・ 継続的に調べ学習を続け熱心に友達に教えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2枚目のリーフレットの作成ということで、モチベーションが上がらない様子。粘り強く学習に取り組むことができなかった。 ・ 千葉県の工業について調べているが、特に話し合いを行い、友達の意見を参考にしてはいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え合い活動を通して、友達の意見を参考にして比較する視点を見直すことができた。 ・ 比較して考察したことを文章にまとめているが、調べたことを羅列して、まとめられていない。
評価	A	B	B

(2) 抽出児童についての考察

千葉県¹の地理的概要・特色の理解度

- ・ A 児は千葉県の地理的概要や特色について教科書や資料などから調べたこと以外についても自分なりにわかりやすくノートにまとめていた。学習に向かう態度や意識が最初の段階から高いことが考えられる。また、学習した項目ごと（人口・交通・気候等）に白地図に丁寧まとめていた。
- ・ B 児と C 児は、教科書や資料で調べたことをノートや白地図にメモをしたりする程度だった。両児童とも調べることに夢中になって取り組んでいたが、今後の学習で調べたことを比較して考察することを念頭に置かせておくことで、調べたことを自分なりに簡単にまとめておくことができると考えられる。

GIS を活用した上での効果

- ・ A 児は調べ学習の段階から、わかったことを比較して考察するための視点が理解できていたため、GIS を活用する前から地理的概要について比較して関連性を見出そうとすることができていた。
- ・ B 児と C 児は GIS を活用することで、地理的概要について比較するポイントを見つけ、関連性を見出すことができた。しかし、C 児は関連性を見出すために比較したものが気候と人口という関連性が見つけられない組み合わせになった。
- ・ 児童が比較して関連性を見出しやすくするためにも、比較するポイントの方向性や指針をあらかじめ教師側で決めておくことが大切であると考えられる。

(人口と土地の利用, 人口と交通など)

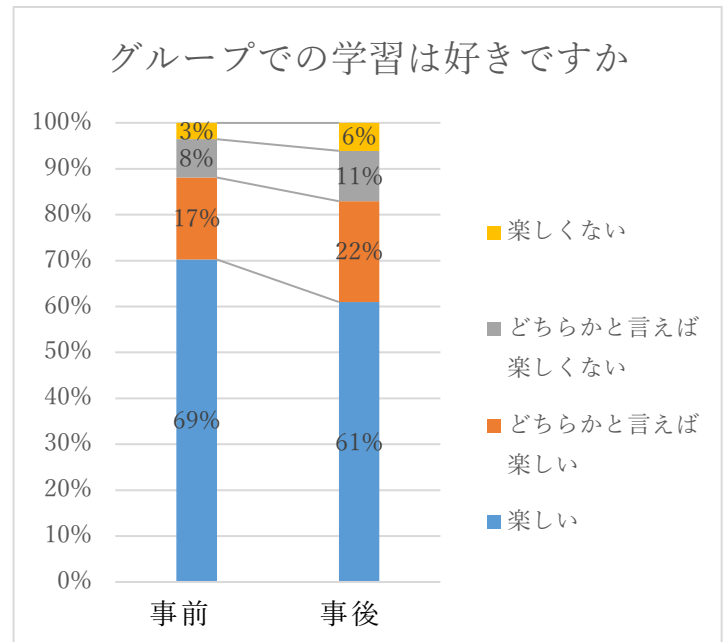
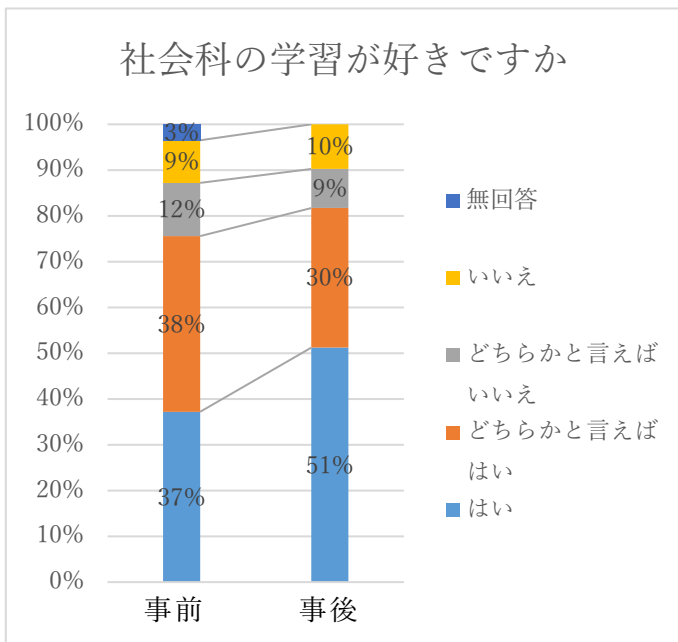
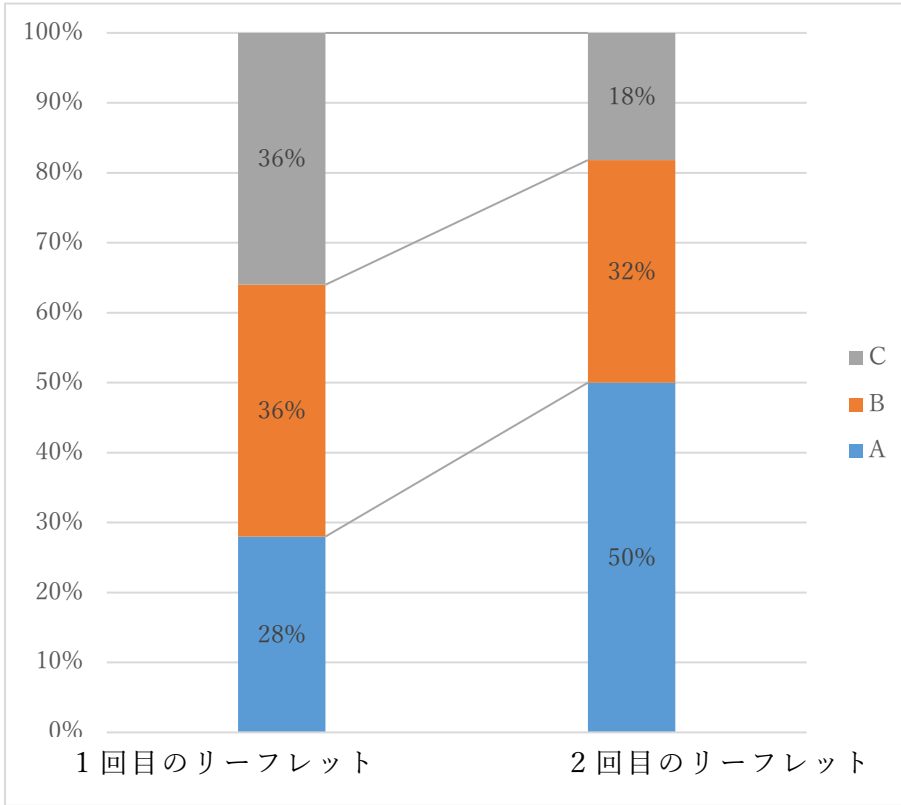
話し合い・伝え合いをした後の児童の変容

- ・ A 児のグループでは、A 児が伝えたことを参考にしようとする児童がいた。A 児の調べたことやまとめたことがわかりやすいこと、低位の児童にも粘り強く伝えようとしていたからではないかと考えられる。
- ・ B 児は話し合い活動ではあまり積極的に参加していなかった。2枚のリーフレット作りとい

うことでモチベーションが下がり、根気強く取り組むことができなかつたと考えられる。

- ・C 児は話し合い活動を通して、1回目のリーフレット作りでずれてしまった視点を修正し、関連性を見出せるリーフレットを作成することができた。意見を交換することで、他者の良い点を参考にすることができたと考えられる。

(3) 単元計画を工夫した上での全体の児童の変容 (知識・理解)



(4) 全体の児童の変容について考察

知識・理解

実態調査から多くの児童が千葉県の土地の概要について理解して、比較・分類して考えることができた。手立てのGISを用いることで、人口や土地の様子・交通等々様々な地理的概要についての関連性について捉えやすくなったのではないかと考える。

1回目のリーフレット作成では、各児童が調べたことに関係性があるかどうか判断できても、自分で考察することが難しい児童が多数いた。しかし、2回目のリーフレット作成では調べたことも増え、土地と産業の関連性についてより考察することができた児童が増えた。

学習に取り組む態度

千葉県の産業についての学習内容をメインに伝え合いの学習を行った。グループの中で農業・工業・水産業に分かれて調べ、まとめたことをグループの中で伝え合った。児童がそれぞれの産業について調べる時間は確保することができたが、「伝え合うこと」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、時間や場所の確保が制限されてしまった。「グループ学習が楽しいか」というアンケートからも事前より事後の方が否定的な感想をもった児童が若干多くなってしまった。しかしその中で「社会科学習に意欲的に取り組めたか」というアンケートやノートの記述から見ると、肯定的な児童が増えていることがわかる。

また、産業について自分が調べたことや、考えたことをリーフレットにまとめる前にジグソー法を活用して伝え合うことで、他の産業との違いを比較・関連させたり、各産業の特徴をより細かく捉えたりすることができるようになったと考えられる。

10 成果と課題

〔成果〕

- ・ICTを活用することで、自ら調べたことを比較したり分類したりすることができた。
- ・特にICTの活用によって、視覚的に地理的概要を把握したり比較したりすることがしやすくなり、自分たちの言葉でまとめやすくなった。
- ・自分たちの住んでいる県を題材にすることで、身近に感じながら取り組むことができた。また、調べて比べたことを、それぞれの言葉でリーフレットにまとめることができた。
- ・国語科の学習内容と絡めることで、リーフレットの作成の仕方を学んだ後で、社会科の学習で実践することができた。また、カリキュラムマネジメントの点からもうまく連携して取り組むことができた。

〔課題〕

- ・調べてわかったことを比較したり分類したりすることはできても、そこから考えられることが何かを見出したり、考察したりすることが難しい児童がいた。
- ・今回の授業計画では、リーフレットを2部作成した。そのため、こまかくまとめるとはできたが、児童に負担がかかった部分もあり、意欲が下がってしまった。
- ・産業について詳しく調べていくことで、より難しい内容や未習事項等のわからないことを調べていくことがあった。どこまでの情報を取り上げるべきか、考えさせるかを教師側があら

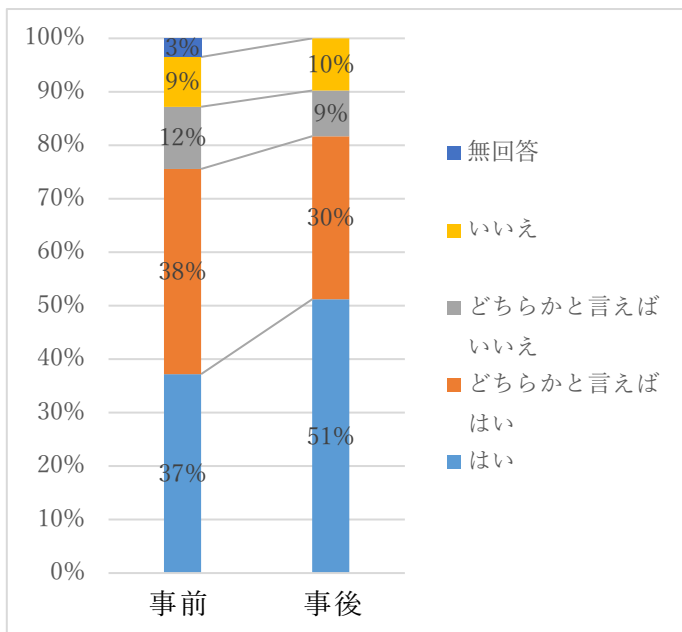
かじめ決めておく必要があると感じた。

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、グループ学習を行う上での時間と場所の確保がしっかりできていないことがわかった。学習を進めていく上で、グループでの学習をいつどのように行うのかを、よりはっきりさせておく必要があると感じた。

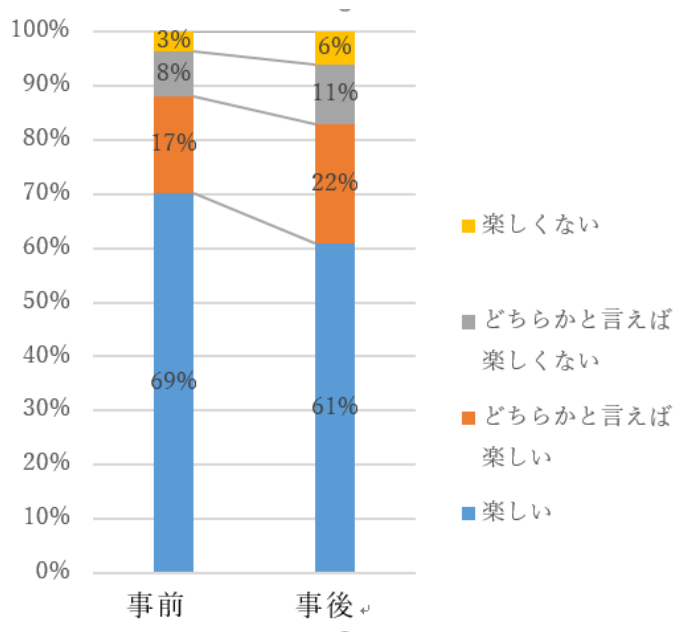
資料編

資料①
児童アンケート

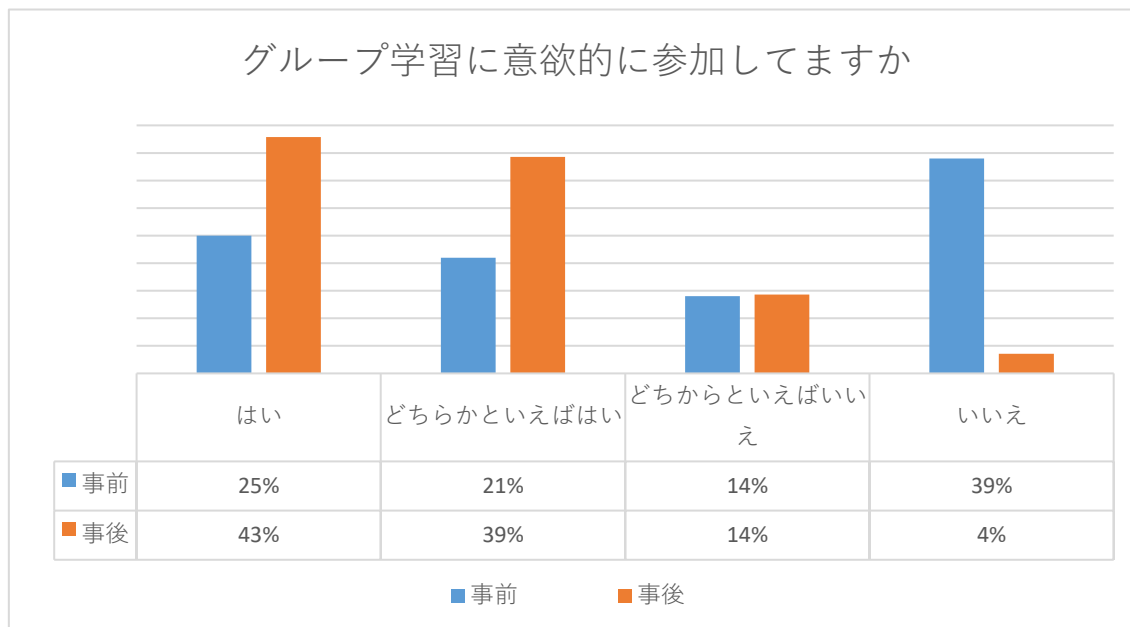
1 社会科の学習は好きですか



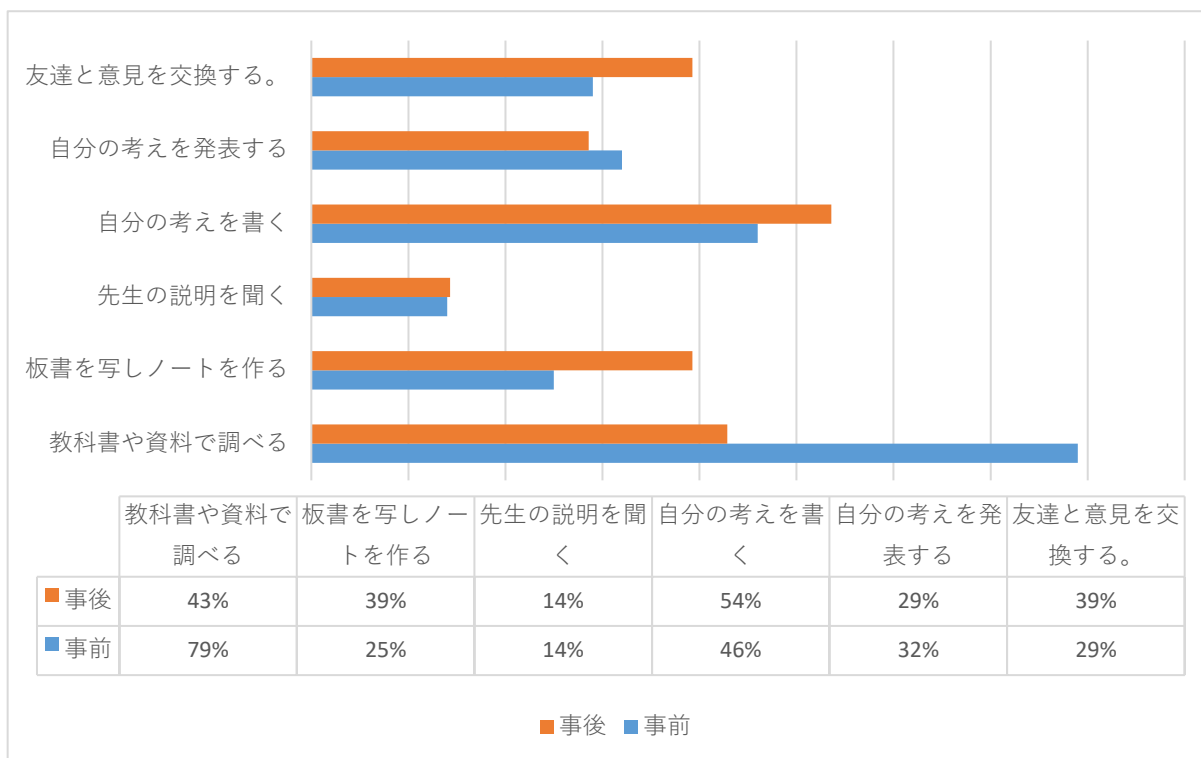
2 グループ学習は楽しいですか



3 グループ学習に意欲的に参加していますか



4 社会科学習の好きなことは何ですか（複数回答可）



○グループ学習に意欲的に参加している児童が増えたこと，社会科学習を楽しんでいる児童が増えているにもかかわらず，グループ学習を楽しんでいる児童は減少している。

これはグループ学習の行い方（距離をとる・デスクシールドを装着する・グループ学習の回数を減らすなど）が関係していると考えられる。

○グループ学習に意欲的に参加している児童が多いのに伴って，友達と意見を交換したり，自分の考えを書いたりすることが好きな児童が増えた。

資料②

活用した資料

(1) 図書資料

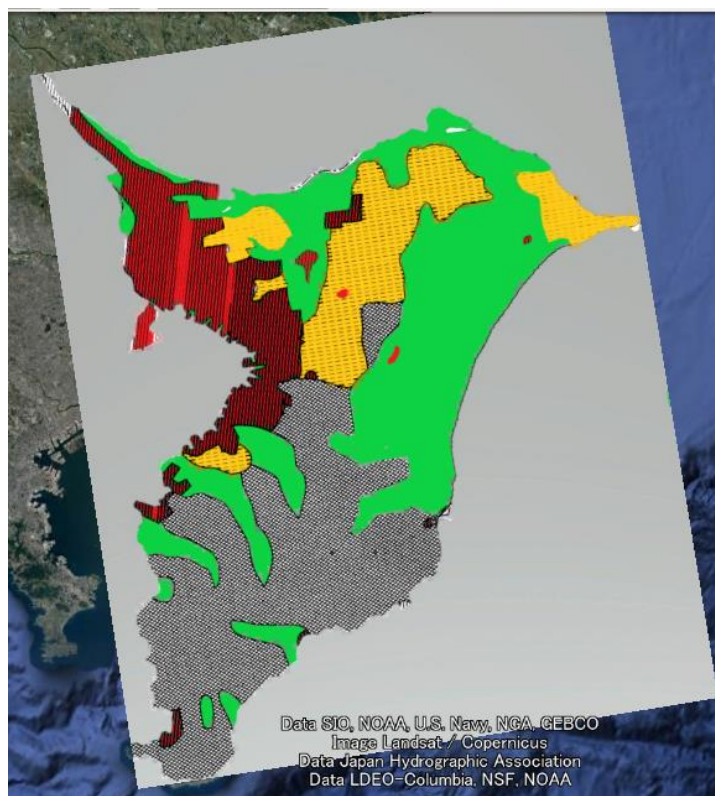
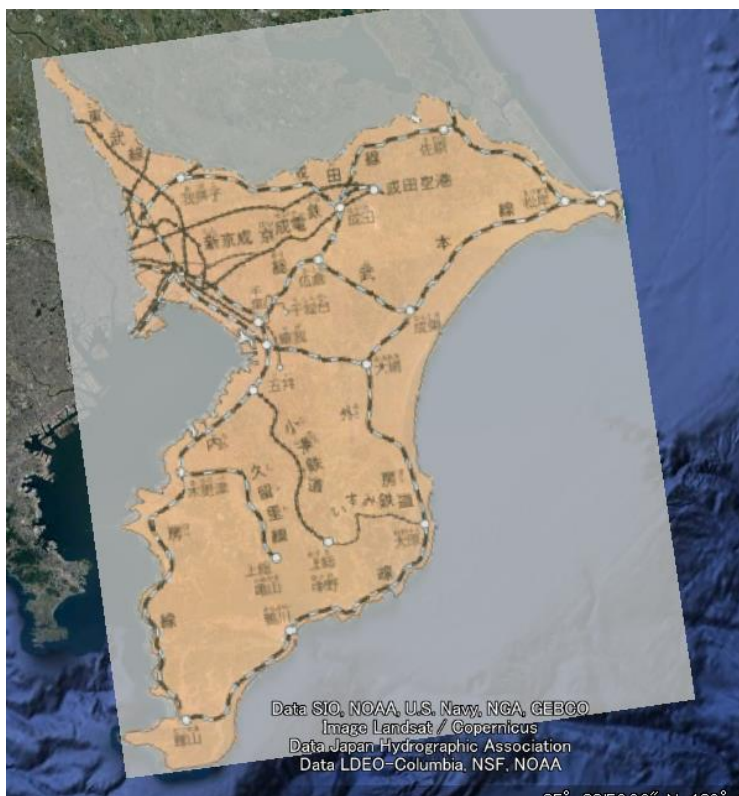
- ・読んで見て楽しむ日本地図帳 井田仁康監修
- ・イラストマップとデータでわかる日本の地理 朝日新聞出版
- ・都道府県大図鑑日本の地理3 井出仁康監修
- ・都道府県別 日本の地理データマップ第3版(関東地方) 坂本正彦監修
- ・ポプラディア日本の地理 (関東地方) 寺本潔監修

(2) 地図・GIS

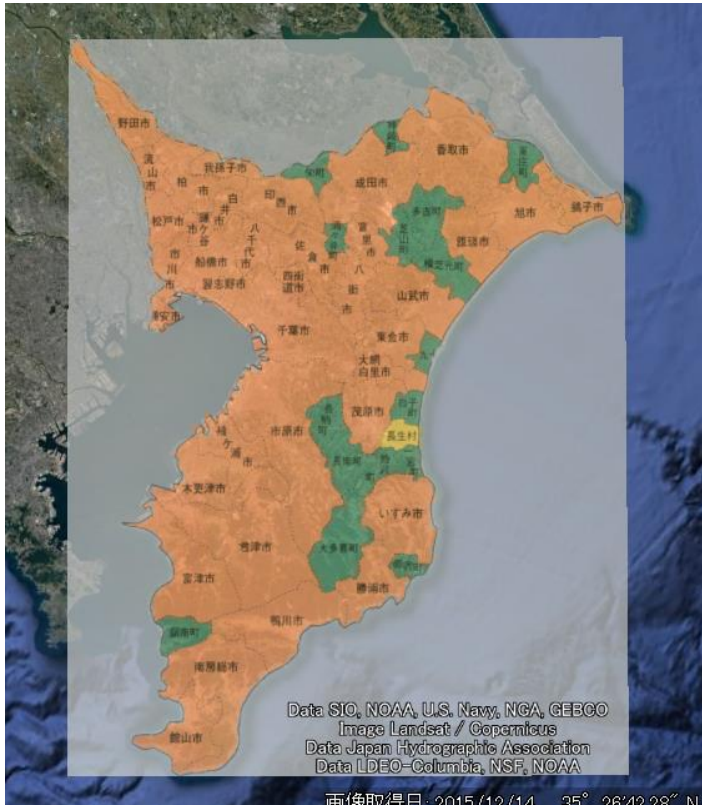
○交通・鉄道・土地の利用・市町村・年間雨量・人口・降水量最低気温の地図をそれぞれ用意し、GISのソフトに取り込み重ねて比較できるようにした。

・ 鉄道

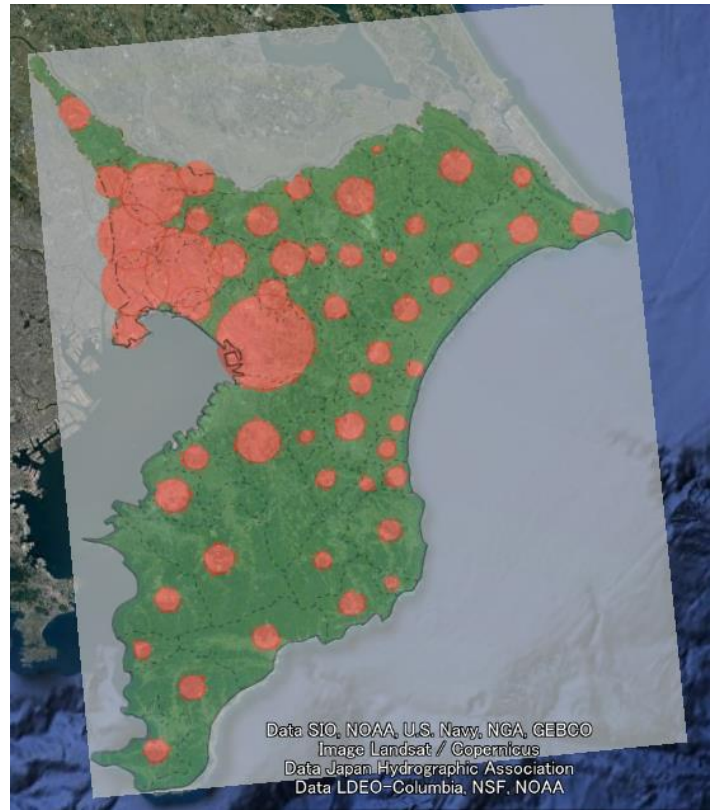
・ 土地の利用



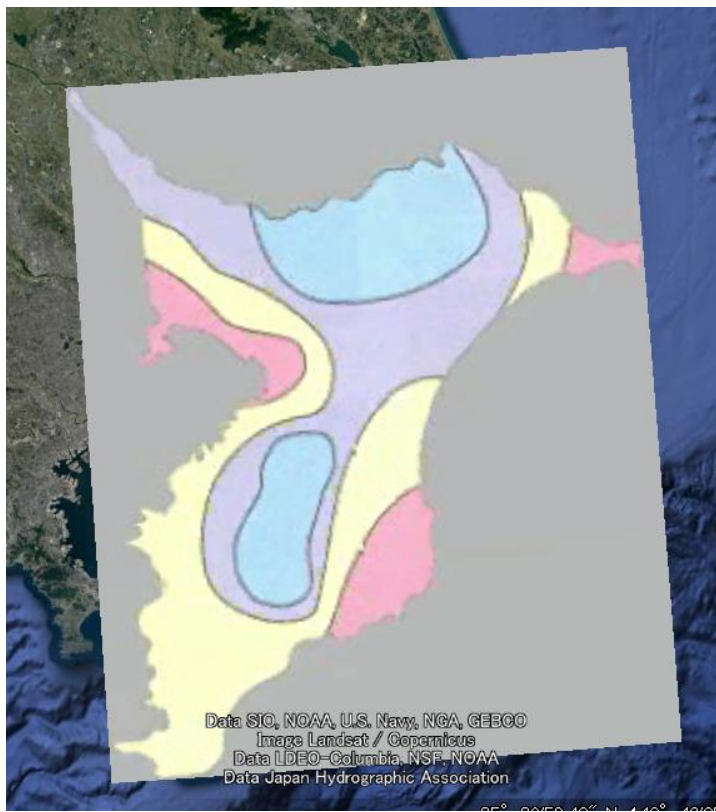
• 市町村



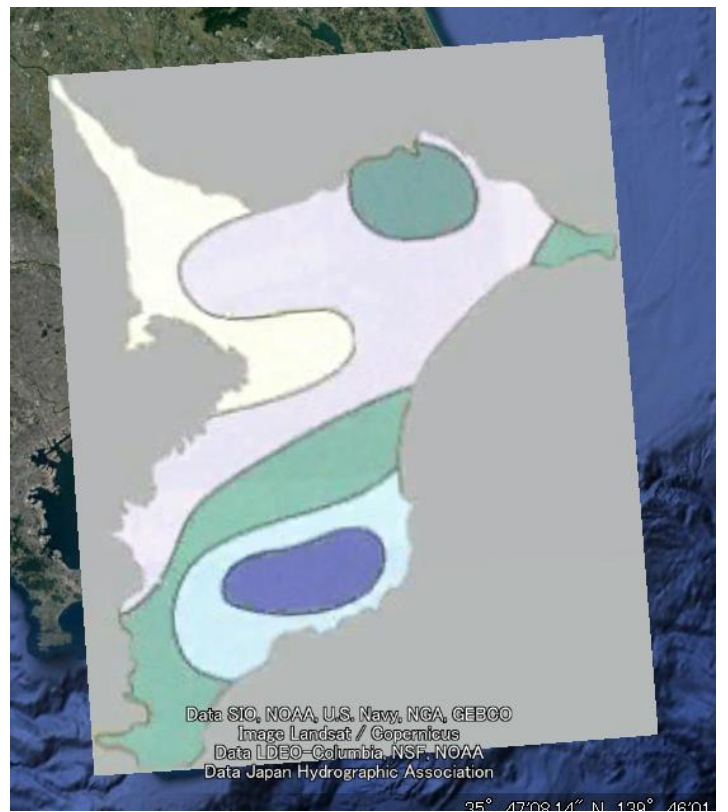
• 人口



• 最低気温



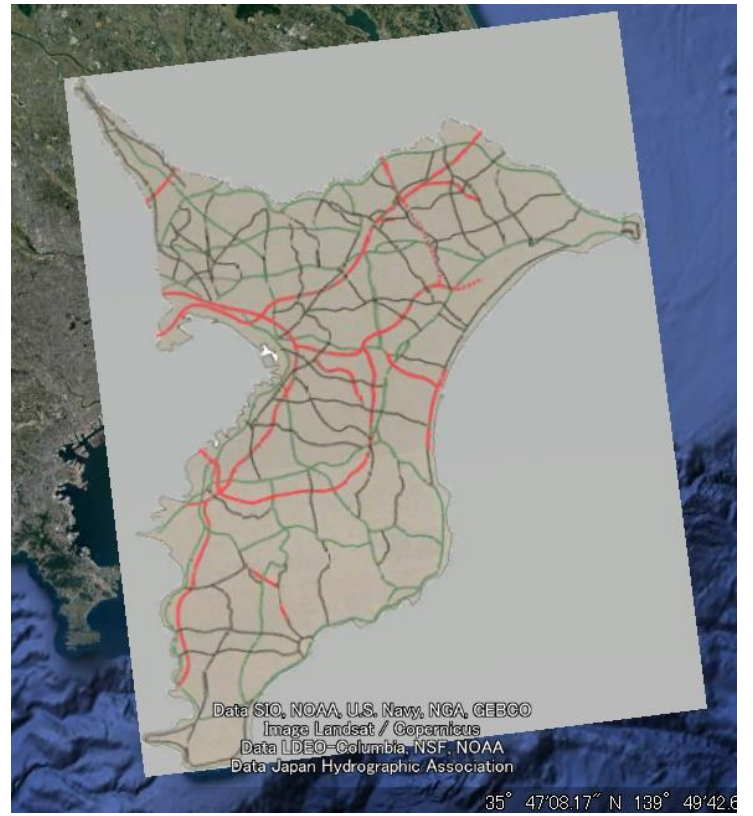
• 降水量



• 土地

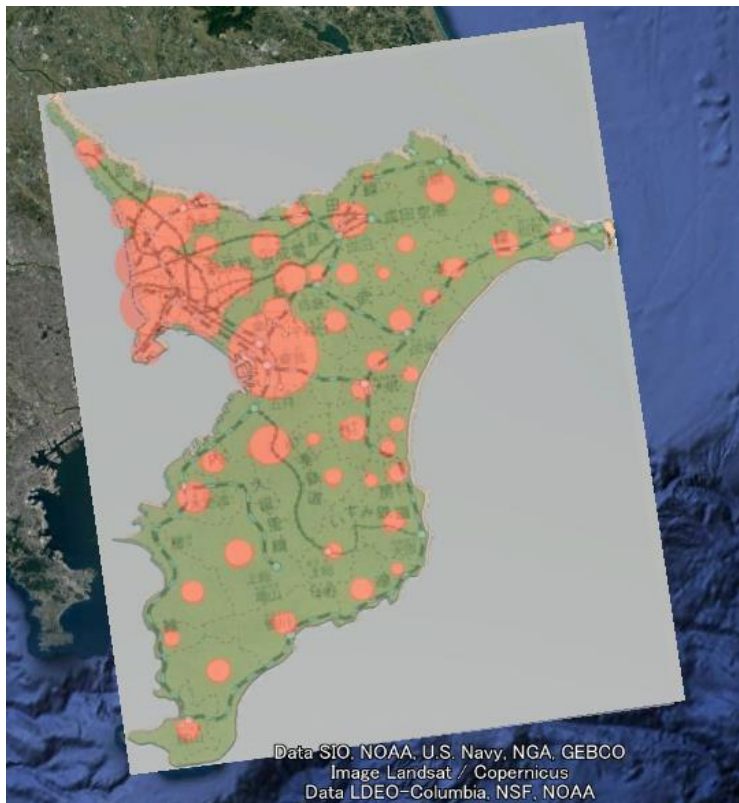


• 交通（高速道路）

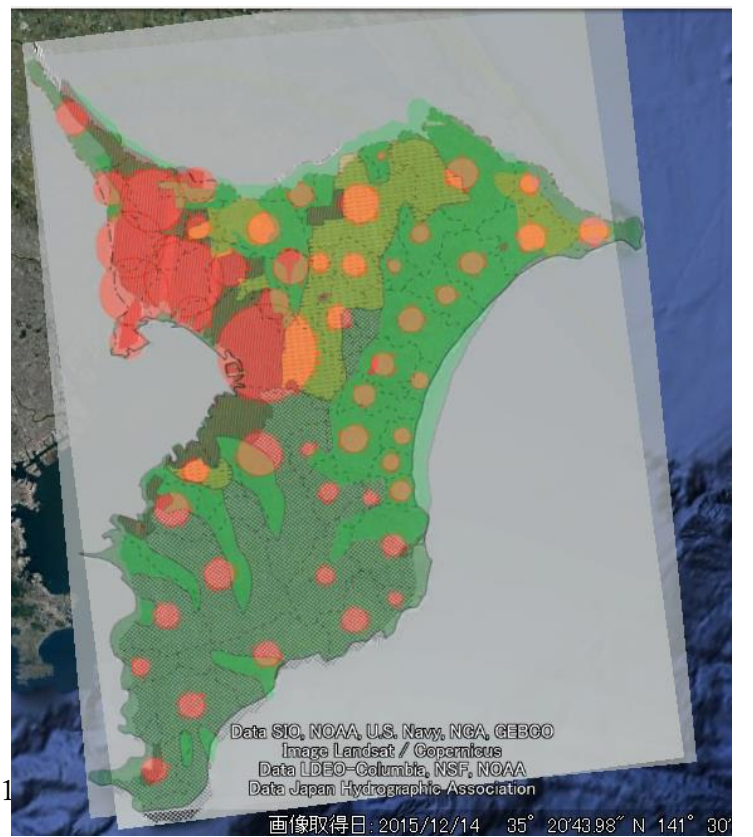


○組み合わせ

1 鉄道と人口



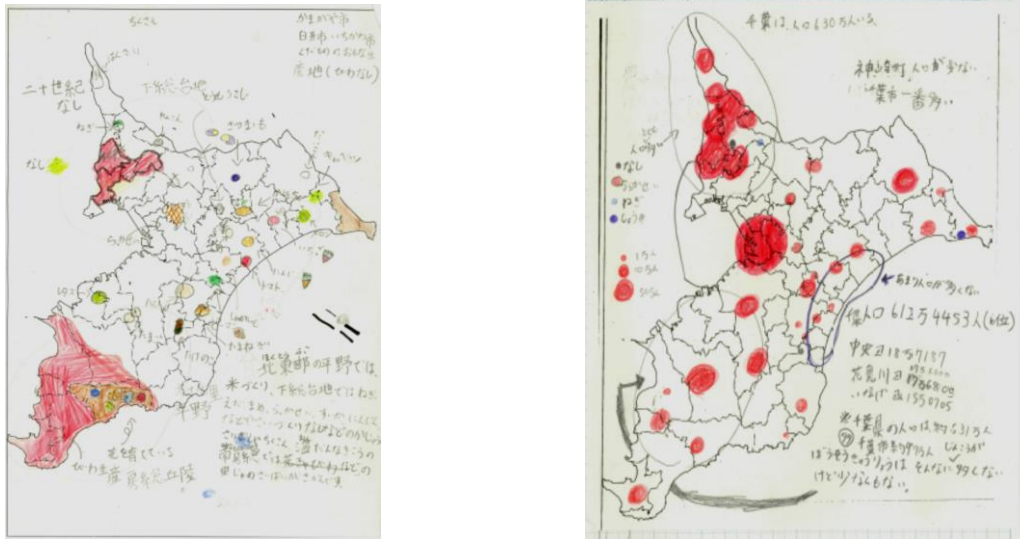
2 土地の利用と人口



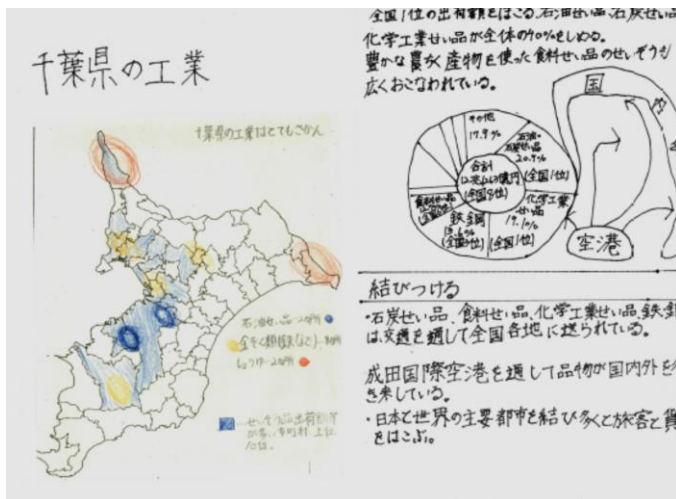
資料③

GIS を活用した後の児童の変容（ノート・リーフレット）

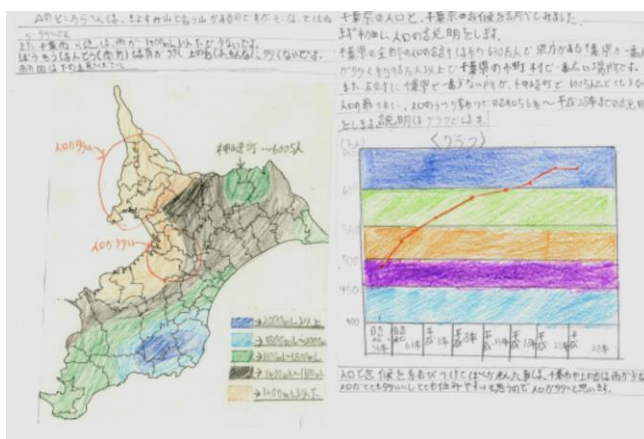
(1) 調べ学習の段階から自分のわかったことを比較して考察することができていた（児童 A）



(2) 2枚目のリーフレットの作成ということで、モチベーションが上がらない様子。粘り強く学習に取り組むことができなかった。（児童 B）



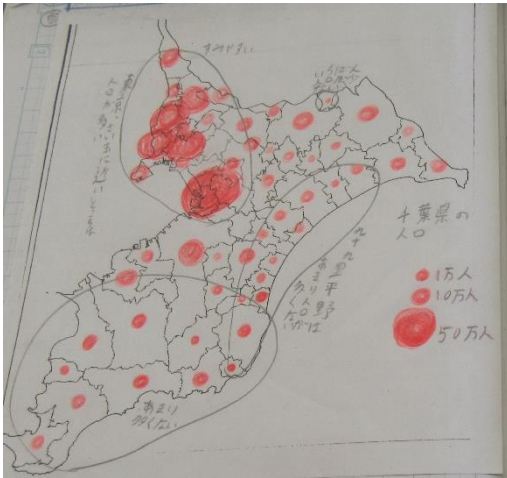
(3) 関連性を見出すことができない組み合わせ（児童 C）



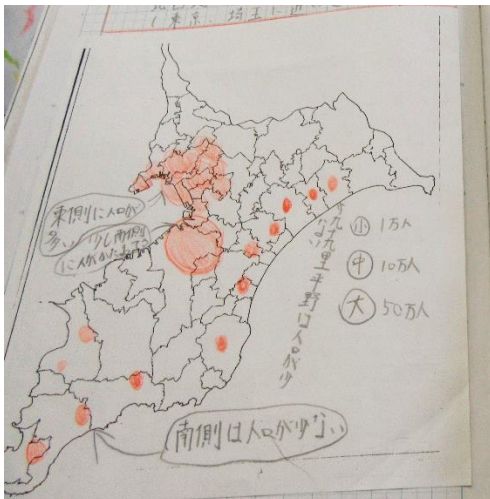
(3) 各基準の児童のノート・リーフレット

・地理的概要の特色理解度

評価基準 A



評価基準 B



評価基準 C



・GIS 活用した上での効果

評価基準 A

・前に学習したことを使って、交通について説明しよう。

- 千葉市の近くは人口も交通も多い
- 九十九里平野の近くは人口も交通も多い

大切なこと

- 千葉県内を鉄道、道路が結ばれている(交通量UP)
- 鉄道、道路は人や物運ぶために大切
- 房総丘陵⇒交通が少ない(人口も)
- 森林が多い。あ、たか
- 下総台地は住宅が多く人口が多い⇒交通も多い
- 房総丘陵⇒高速道路} 少ない
- 南部は有料道路(鉄道)} 少ない

評価基準 B

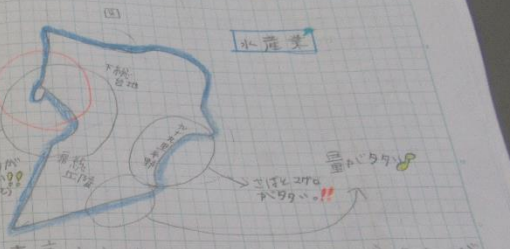
県内の鉄道は、東京都に近く、人口が
多い地西部と中心に発達している。
地西部には、JRの常磐線や京葉線、新
武本線などの路線が乗り入れ、東京都
下総台地の住宅が多い所は、人口も多
く、鉄道もよく通っている。

評価基準 C

★自分で決めた組み合わせで関係を見つかる

- ・房総半島あたりはあたたかりそして雨が多し。
- ・下総台地は冬は寒いけど、雨は房総半島あたりよりは雨が少なし。
- ・とくに、千葉市らへんが温かく、雨が少なし。
- ・房総半島でも寒く、雨が多しところもある。(1)
- ・下総台地でとくに上の方が寒く、雨が多し
- ・千葉県ほかの県よりもあたたかい
- ・とくに北らへんが寒い。
- ・南のほうは雨が多し

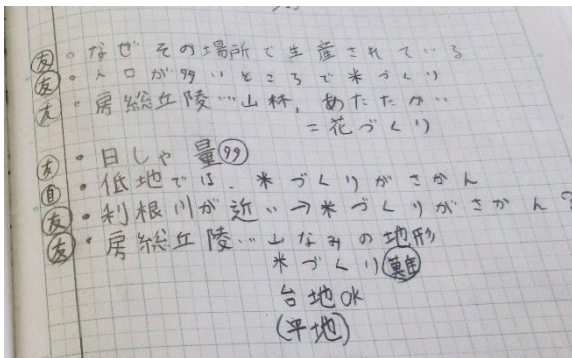
・話し合い、伝え合いをした後の児童の変容
評価基準 A



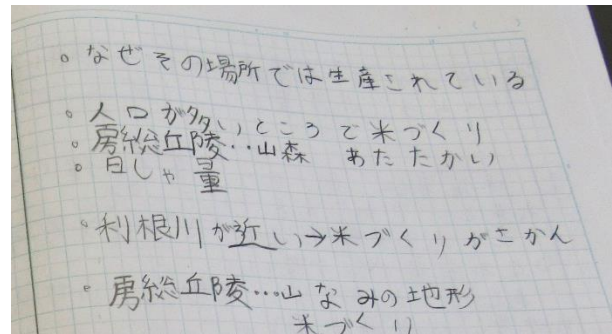
水産業

- ・東京湾あたりにはあさりやタコが
多し。
- ・太平洋がわがわが多し。
- ・オナト、ほ、千葉に3ところある。
- ・東に、さばとマグロがいる。
- ・尾は、1番さばがとれている。2番
は、いわしで3番はブリ、4番がその他
の魚があじ。
- ・千葉県は水産業がさかんです。
- ・東京の人ほどとれる量が少なしです
- ・東京の人は太平洋よりさばがと
る。さばを同じ
- ・とりすぎないように魚をさだて
- ・1番多しのは、みらめ→135下び

評価基準 B



評価基準 C



資料④

参考文献

- ・『小学校学習指導要領（平成二十九年度告示）解説 社会科編』 文部科学省
- ・『見方・考え方 社会科編』（2017） 澤井陽介，加藤寿郎編著
- ・『社会科学力をつくる知識の構造図』（2017） 北俊夫著
- ・『知識の構造図を生かす問題解決的な授業づくり』（2015） 北俊夫著
- ・『資質・能力を育成する社会科授業モデル』（2017）
粕谷昌良編集 白石範孝監修
- ・宮川拓史（2017）『フィールドワークと GIS を活用した見方・考え方の獲得と歴史的な思考力の育成』 長研生研究報告書